

★ アンケート回収数は、児童428名、保護者408名、教職員28名である。
 ★ 回収したアンケートのうち、評価項目によっては無回答の場合もあるため、評価(A～D)は集計した実数ではなく、割合(%)で示している。
 ★ 平均、総合評価は、比較しやすいように4点を最高として示している。 《平均》 (4点×Aの回答数 + 3点×Bの回答数 …) ÷ 回答総数

1 知恵いっぱい (学び)

(A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない)

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント	学校運営協議会委員によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均		
1	先生は、一人一人の子どもに対して分かりやすい授業を行っている。	児童 保護者 教職員	46 53 42	39 43 58	10 3 0	5 1 0	3.3 3.5 3.4	3.4 ○ 授業の分かりやすさについては、児童・保護者の回答及び教師の自己評価からも概ね肯定的に受け止めていることがうかがわれる。ただ、各種学力テスト等の結果から、個人差や学年差が大きく見られる。今後、教師一人一人により明確な行動・成果指標を掲げさせ、OJTをとおして指導力の向上を目指した研修や個別指導に努めていくことが肝要である。 ○ 学習習慣の定着については、教師の自己評価と比べ、児童の回答がかなり低くなっている。校務(学習)部で「一貫性」と「きめ細やかさ」を基調とした指導計画を再構築し、共通理解と共同実践を行っていくことが喫緊の課題である。 ○ 家庭学習に関しては、児童・保護者の回答及び教師の自己評価で概ね良好な回答を得ている。ただ、学びの質というから家庭学習の目的・意義、内容・方法等について共通理解を図ったり、実践や成果・課題について報告や意見交換を行う場を設けるなど、学習指導法の工夫・改善の一端として取り組んでいく必要がある。 ○ 読書の習慣化を図る取組については、全体的にやや低い結果が表出している。読書推進については、「楽しさ」や「よさ」に気付かせることを第一義とし、全校で足並みを揃えるとともに、今後も家庭と協力しながら習慣化を図る手立てが必要である。	○ どの学年・学級も分かりやすい授業づくりに向けた工夫・改善がなされ、児童一人一人の学力に結びついていると思われる。また、家庭学習についても保護者との連携もうまくいっていることが、アンケート結果からも伺える。もっと先生方には自信をもって伸び伸びと励み、それが学習成果や意識調査の結果に反映できるよいと考える。 ○ 児童の豊かな心を育成する上でも、読書の習慣化は不可欠である。読書推進についても継続して努めてほしい。読み聞かせ等についても、学校と保護者、地域が連携して取り組めるシステムを構築していくことが望ましい。「読書しなさい」ではなく、「本を読むことが楽しい」「自分のためになる」と実感できる読書啓発・指導が大切である。
2	先生は、学習中の姿勢や発表の仕方など、望ましい学習習慣の定着のために、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	21 58 56	43 38 44	28 3 0	8 1 0	2.8 3.5 3.6		
3	先生は、宿題や宅習など、日々の家庭学習への適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	69 60 44	20 36 56	8 3 0	3 0 0	3.6 3.6 3.4		
4	学校は、本に親しみ、読書習慣を定着させるための、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	38 45 41	28 47 48	20 8 11	14 0 0	2.9 3.4 3.3		

2 心いっぱい (豊かな心)

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント	学校運営協議会委員によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均		
5	学校は、元気なあいさつや会釈について適切に指導している。	児童 保護者 教職員	49 65 48	31 32 48	15 2 4	5 0 0	3.2 3.6 3.4	3.4 ○ 「目指せ！あいさつ名人」を合い言葉に、生徒指導部が中心となって指導に取り組んできた。だが、児童の個人差や教師の指導の温度差がみられ定着には至っていない。まずは学校全体が一丸となって取り組む体制を固め、共同実践によって徹底を図っていくことが大切である。 ○ 無言清掃が概ね実施できている。また、高学年の児童が始業前の奉仕活動に勤しむなど校内美化に取り組む姿もみられる。しかし、その一方、落ちていたゴミを見過ごす等の実態も見受けられる。今後、「私たちの学校」という意識をもって、教師の率先垂範による児童の主体的な美化活動に取り組むことが大切である。 ○ 生徒指導部が中心となって、くつ(スリッパ)並べや廊下歩行についての指導と点検(評価)を行ってきたことで、児童の意識は向上してきている。あいさつと同様、学校全体が一丸となって継続的に指導していくことが大切である。 ○ いじめや差別のない人間関係や思いやりの心が醸成されてきている。また、気になる児童があれば、生徒指導主事を中心に情報交換や教育相談など初期対応に努めてきた。その結果、どの児童も所属感をもって、いきいきと学校生活を送っている。今後も児童同士、児童と教師を軸とした人的環境づくりに努めていくことが大切である。	○ 学校内外での児童の挨拶に積極性が見られるようになってきた。子ども達に元気に挨拶してもらえることは嬉しいことである。子ども時分からの「あいさつ」に係る原体験の大切さを実感する。ただ、保護者や地域の大人については、挨拶や会釈ができない者が増えてきているのが残念である。なぜ、挨拶が大切なのかについて今一度学校や家庭で話し合う機会もあるとよい。学校運営協議会としても、「挨拶運動」について呼びかけていきたい。 ○ 最近、自己中心的で他人に気配りのできる大人が少なくなってきた。育成会への加入や協力状況からもそれが顕著になりつつあり、対人関係が悪い意味で変化してきたことが気になる。子どもと高齢者という二極化した交流だけではなく、親の世代も含めた交流の在り方が、今後求められていくと思われる。心を通い合わせる対人関係を大切にしたい教育の工夫改善に努めたい。
6	学校は、無言清掃が定着し、環境美化が行き届いている。	児童 保護者 教職員	41 55 33	40 42 63	14 3 4	5 0 0	3.2 3.5 3.3		
7	学校は、返事やくつ(スリッパ)並べ、正しい廊下歩行など、基本的な生活習慣の定着に向けて、適切に指導している。	児童 保護者 教職員	33 61 41	46 37 56	15 2 4	5 0 0	3.1 3.6 3.4		
8	学校は、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに努めている。	児童 保護者 教職員	81 51 25	13 41 71	4 7 4	2 1 0	3.7 3.4 3.2		

3 汗いっぱい (健康・安全)

門川町立門川小学校 (NO. 2)

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント	学校運営協議会委員によるコメント	
		対象	A	B	C	D	平均			総評
9	学校は、運動に親しみ、体力向上をさせるための適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	68 56 37	22 39 48	8 4 15	2 0 0	3.5 3.5 3.2	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力テストの結果から児童の体力や運動能力の二極化がうかがわれる。体力向上プランに基づき、係による研修や資料提示による手立てをとっているが、十分とは言えない。体育科の授業改善を軸として、児童一人一人に運動の習慣化を浸透させ、体力向上を図るための具体的方策について工夫・改善していく必要がある。 ○ 児童の生活リズム(早寝・早起き・朝ご飯、家庭学習やTV・ゲーム等)については、徐々に改善が図られてきている。望ましい生活リズムの形成は、児童の心身の成長にとって不可欠である。養護教諭を活用した保健指導や学校保健委員会や、参観日の在り方等についての工夫・改善が大切である。特に、保護者との連携については計画的・継続的に推進していくことが大切である。 ○ 給食指導や弁当の日・食育教室等の取組が、児童の食への関心の向上や偏食克服に繋がっている。今後も家庭と協力し、健康づくりを基調とする食育に努める必要がある。 ○ 地域の安全見守り隊の方々との連携により、登下校時の安全に対する意識や態度は高まってきている。避難訓練については、特に、年3回の地震・津波対応を中心に計画的に実施した。しかし、危機を予測し、回避する能力は十分身に付いているとは言えない。その育成に向けた計画的・継続的な安全教育の推進が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近年、児童の体力が落ちてきているという報道をよく聞くが、本校が運動や外遊びを奨励していることはとても喜ばしいことである。いつの時代も児童の体力づくりの基盤は外遊びである。ぜひ今後とも推奨して欲しい。 ○ 「早寝・早起き・朝ご飯」の啓発も挨拶と同様、その意味(意義)について明確にした上で推進していくことが大切。単なる「～しましょう。」から「～だから大切です。そこで～しましょう。」という働きかけが、児童はもとより保護者に対しても必要であると考えます。 ○ 地域としても児童の安全確保に努めていきたい。不審者や道路・その周辺について危険箇所等に関する情報は、学校と地域とで情報を共有し、改善に努めていく体制を大事にしていきたい。
10	学校は、生活リズム(早寝・早起き・朝ご飯)を身に付けさせるために、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	55 60 39	30 35 50	11 4 11	4 0 0	3.4 3.5 3.3			
11	学校は、給食指導や弁当の日の実施など、望ましい食習慣の定着に向けて、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	68 67 50	22 31 50	7 1 0	3 0 0	3.6 3.7 3.5			
12	学校は、避難訓練や交通安全教室を通して危険から身を守る態度の育成について、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	65 72 57	26 26 43	7 2 0	2 0 0	3.5 3.7 3.6			

4 連携等

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント	学校運営協議会委員によるコメント	
		対象	A	B	C	D	平均			総評
13	学校は、よのなか先生やもの(素材)を生かしたふれあいや体験活動を積極的に行い、キャリア教育の充実にも努めている。	児童 保護者 教職員	69 49 31	23 44 50	5 6 19	4 0 0	3.6 3.4 3.1	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年単位で、ようこそ先輩・よろしく先輩や地域の方々の協力による講座や体験活動等に取り組んだ。結果からみて、児童は、高い充足感を味わっているようだ。一方、保護者や教職員の評価がやや低い。キャリア教育に関する保護者への啓発と取組に係る情報発信の在り方について工夫・改善が必要である。また、教師個々にキャリア教育を体系的に捉え、学びとしての活動を計画・実施・評価できる能力を育てる研修が必要である。 ○ 学校の情報を分かりやすく伝えることについては、概ね良好な結果となっている。今後も様々な機会や方法で、今後も学校の取組や児童の活躍等についてアピールするとともに、行事計画や連絡事項の確実な伝達に努めていくことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケート結果を全体的に見ると、教師の評価が厳しい。教える側としては、めざす児童・生徒の姿が当然のことであろう。しかし、自己評価において「自分なりにしっかり取り組めた」と自信をもって回答できるような日々の姿勢で指導に望んでほしい。 ○ 学校や児童への苦情だけではなく、称賛の声がより多く聞かれる学校、そして地域でありたい。今後、一層の双方向による情報交換の活性化とプラス面のアピールができるような関係を構築していくことが大切であると考えます。
14	学校は、教育目標や課題、必要な情報等を、PTA総会や学級懇談会、学校だより等を通して、分かりやすく発信している。	児童 保護者 教職員	— 61 37	— 33 48	— 6 15	— 0 0	— 3.5 3.2			

5 総括

門川町立門川小学校 (NO. 3)

<ul style="list-style-type: none"> ○ 本調査では、教育ビジョンを「知恵いっぱい」(基礎・基本の確実な定着と学力の向上)、「心いっぱい」(基本的な生活習慣の定着と豊かな心の育成)、「汗いっぱい」(体力・健康づくりと危機を予測し、回避する能力の育成)の3観点と地域との連携(含キャリア教育)で構成し、それぞれの観点における重点事項を評価規準として示した。そのことによって、学校運営や教育活動の目指すゴールイメージが児童、保護者、学校評議員を主とした地域住民にとって分かりやすいものとなり、評価にも反映したのではないかと考えられる。 ○ 各質問事項に関する教師の評価が児童・保護者のそれと比較して全体的に低いことは、単に謙虚さとしてではなく、教育ビジョンの認識や教育実践に関する反省として受け止める必要がある。今後、次年度の学校経営を構想や教育課程を編成と絡めつつ教育ビジョンの周知を職員に図るとともに、学校や各学級の実態に即した具体的行動指標を設定させていくことが重要と考える。 ○ 本校の児童は、行動や健康・安全について特に大きな問題はなく、全体的に日々健やかに成長している。ただ、学習や生活に関する基本的習慣についての定着は十分ではなく、極めて個人差も大きい。学習や生活に関する習慣の形成は、保護者との連携なくしては実現できない。今後も、学校としての取組の工夫・改善だけではなく、PTAの啓発、さらには組織・活動との連動を実現していくことが大切である。 ○ 全学年とも年間を通じ保護者や地域(含ようこそ先輩・よろしく先輩)の協力を得ながら様々な体験的活動を実施してきた。今後は、キャリア教育の視点からそれらの活動について振り返り、ねらいや内容を明確にするとともに、横断的・総合的な視野に立った年間指導計画の工夫・改善が必要であると考えます。また、「ようこそ先輩・よろしく先輩」をはじめ本校区の人材・素材の有利性を生かしたシステムの再構成が必要であると考えます。
--

6 次年度への改善について

<ul style="list-style-type: none"> ○ 観点ごとに課題を整理し、次年度の教育課程や学校経営案の中で改善策を明確にしていく。また、それらについて確実に実践し、教育活動を充実させることをとおして、児童・保護者・地域から信頼される学校をめざしていく。 ○ 門川町教育委員会の重点施策に基づき、豊かな人間性を培い、特に学力の向上を目指すために教職員の資質の向上と教育関係機関との連携に努めていきたい。また、心の教育の充実のためにも家族の絆や命の大切さ、地域を愛する心の醸成など、学校・家庭・地域が連携して取り組む手立てを講じ、実践していきたい。
